



学校便り 琢磨

令和3年度 第12号-2 R3.7.20 三豊市立詫間小学校

— 1学期最終号 号外 —

ご意見・ご質問・ご感想から

7月13日発行の「学校便り第12号-1学期最終号-」で、学校便りに関してのご意見・ご感想、その他学校運営に関するご質問・ご意見をお願いしたところ、たくさんの返信をいただきましたので、学校としての考え方も加えて（太字部分）、号外としてご報告いたします。

ただし、昨日19日（月）の夕方までに返信いただいた分のみ掲載させていただいております。

【学校便りに関して】

- 学校便りをいつも楽しみに読んでいます。写真付きで学校生活のことが分かりやすい。
- 学校便りは、定期的に発行しているのでありがたい。丁寧に作っているという印象を受ける。
- 「校長の独り言」を読むのが好きだ。今回（その8）の独り言を読んで、コロナ禍の夏休みではあるが、親として子どもにしてやれることを考えてみたいと思った。
- 「校長の独り言」を祖父母も含め家族で楽しく読んでいます。
- 見出しがあるので読みやすい。
- スマートフォンでホームページの学校便りも見ることができるのでよい。

【学校運営に関して】

- コロナ禍で学校生活も大変だと思うが、先生方には、がんばっていただきたい。
- 5年生のデイキャンプ、首を長くして待っている。いい思い出づくりができそうだ。
- 仕事のシフトの関係で、子どもが早く下校する日は、これまで同様、早めにしらせてほしい。
- Home & School は、未読が表示されて分かりやすい。
- 担任から、細かな点まで連絡があるので安心して学校に通わせることができる。
- 陸上練習をはじめ、担任・関係の先生が細かな配慮、熱心な指導をしてくれる。詫間小に通うことができ幸せに感じている。
- 4～6年クラブ活動の回数を増やして欲しい。→ 一昨年度と比べてクラブ活動の回数が3～4回減っています。昨年度は、長い臨時休業日のために授業時間を確保する目的でクラブ活動の回数を減らしました。また、昨年度と本年度に共通してですが、新型コロナウイルス感染拡大防止を目的として、異学年の交流の場であり、クラブによっては、外部からの講師の方をお招きしている関係で、できるだけクラブ活動の回数を減らしています。子どもたちには、大変申し訳なく思っています。来年度は、状況を見てクラブ活動の回数を増やしていきたいと考えています。
- 鼓笛はどうなったのか？→ 大変申し訳ありませんが、音楽の時間の楽器演奏も十分にできないような中ですので、鼓笛の再開はまだ見通しすら立っておりません。また、お知らせしたように、運動会につきましても、学年団の入れ替えによる「体育学習発表会」の形を本年度はとらせていただきます。鼓笛につきましては、新型コロナウイルス感染が落ち着いた後、児童や保護者の方にご意見をお聞きし、再開について検討させていただきます。

学校閉庁日について

夏休み中も、学校は月～金曜日の平日、8:00～16:30は開いています。ただし、毎年8月13日～15日の3日間は、「学校閉庁日」となります。

この閉庁日において、児童が事故や災害に遭うなど、緊急に連絡を要する場合のみ、三豊市教育委員会学校教育課（73-3131）へご連絡ください。その後、その内容を本校の管理職が受けて対応いたします。なお、今年、三豊市教育委員会学校教育課に連絡できるのは、8月13日（金）の8:30～17:15です。

「真鍋校長の独り言」その9

夏休みの思い出 —あこがれ編—

私の祖父母の家（瓦工場）までは、私の家から歩いて2～3分です。普段は、職人さんたちが帰った後は、祖父母だけしかいなくなるこの家に、夏休みになると、東京に住んでいる従兄弟（いとこ）二人がやって来て住み着きます。この二人、私より6歳と8歳年上です。簡単に言えば、子どもだけで田舎の祖父母の家に1か月間帰省するという事です。東京のおじさんとお婆さんは、お盆の数日だけ帰省します。つまり、おじさんとお婆さんが8月中に自分の子どもに会うのは、帰省した数日だけというわけです。

この二人が祖父母の家に着いたと聞くと、私はさっそく二人に会いに行くのですが、私から話しかけることはなかなかできませんでした。私を見つけた従兄弟たちは、「よっ、佳樹じゃねえか、元気だった？そんな所で突っ立てないでさ、こっちに来なよ。アイス食べる？それにしても1年見ない間に、ずいぶんでかくなかったね！」なんて、東京の言葉で話してくるものですから、私は、何も言えないのです。また、私は夏休みといえば、白いランニングシャツに半ズボンという格好ですが、この二人はおしゃれなTシャツなんかを着ているのです。私は、この二人の姿と言葉から、行ったことも見たこともない「大都会 東京」を感じて、すっかり気後れしてしまうからです。「それにしてもさ、香川の電車には参っちゃうよな。1時間に1本あるか、ないかだぜ。うっかり乗り過ぎちゃったら、大変なことになっちゃうよ。東京だとさ、そうだな、3分に1本くらいは電車が来るかな。」と言う従兄弟たちに、私はやっと、「東京やと電車って言うんやな、汽車のことを。3分に1本言うたら、次々やん。ガラガラで走るん？」と聞いてみました。「すげー混んでるぜ、特に、朝と夕方は。駅員さんが押し込んでさあ、それでドアをやっと閉めるんだぜ。」なんて答えるものですから、東京という町は、いったいどうなっているのか、私の頭では想像もできなかったのです。

とにかくこの二人は、私にとってはあこがれの東京のお兄さんたちだったのです。2日目も、3日目も私は、このお兄さんに会いに行きます。そうすると、「散歩にでも行くか！」となるのです。私は、ここでやっとこの二人の前を歩くことができます。「これが、ザリガニ。ザリガニは共食いやきん、ザリガニでザリガニを釣れるんで。」などと、私は二人に教えながら案内をするのです。すると、「佳樹はすげーなあ、物知りだよ。尊敬しちゃうね。」なんて誉められるものですから、楽しくて仕方ないのです。ある時なんか、この二人、台所にいるゴキブリを虫かごに入れて持って帰ろうとするのです。本物のゴキブリを見たのが初めてだと聞いて、私は、「それ、ゴキブリやで。かごに入れてもすぐ隙間から逃げるで。」と、三人で大笑いしたこともありました。ほとんど毎日、この二人の従兄弟と遊んで、友達が遊びに来て、その友達と一緒に二人の従兄弟と遊んで、あっという間にセミの鳴き声が変わる季節になります。

8月30日か31日、この二人が夏の間過ごした祖父母の家の二階の部屋は、すっかり片付いて、大きなリュックサックが2つだけになります。とうとう東京に帰る日です。1か月、香川で生活した二人に、私は、「ほな、元気だな。また来年も来てよ。」と言ってお別れします。二人も「ほな、またな。来年も会おうで。」と、いつ覚えたのか、香川の言葉でお別れをします。

私は、二人が東京に帰って行った次の日も、くせになって祖父母の家の二階に行ってしまう。がらんとした静かな部屋を見て、二人がいなくなったことを自分の心に言い聞かせていたような気がします。

そして、私が二人の従兄弟のことを忘れてしまうのは、やっぱり学校が始まって、勉強が本格的にスタートした頃だったのでしょうか。どこにも行かないけれど、わくわくした夏の思い出です。

明日から、長い夏休みですね。皆さんが、それぞれ素晴らしい思い出を作ってくださいることを、私は心から願っています。